

平成29年度 国語 『現代文A』 シラバス

講座名	現代文A	学年	3年
単位数	2単位	留意点	国語総合履修後の選択科目である。日本の近現代文学史に主要な作品として掲載のある小説を中心に、日本人としての文学的教養を高め、読解力を養う学習をする。
選択・必修	選択		
教科書	現代文A 青春文学名作選(教育出版)		
副教材等	なし		

◎科目の目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

◎授業計画 現代文編

		単元・教材名	学習内容	留意点
前期	4	1 随想一 言葉を友人に持とう 寺山修司 美しい時間 加藤周一	○文章の展開や言葉の持つ効果などを理解し、筆者の主張を的確に読み取る。 ○筆者の主張を参考にしながら、自分の問題として受け取り、自己の考えを深める	
	5	2 小説一 鏡 村上春樹 他人の夏 山川方夫	○それぞれの作品に描かれている人物とその関係、情景、心情などを的確に読み取る。 ○それぞれの作品の表現が持つ効果などを味わい、ここに描かれた若者の心理を、自己の考えと比較しつつ読み取り、作品の主題について考える。	
	6	白鳥 三島由紀夫 ステップアップ1「一人称の語りと三人称の語り」 読書案内1「戦後の青春」	○さまざまな小説の読解をとおして、想像力を養う。	
	6	3 詩 喪失ではなく 吉原幸子 死んだ男 鮎川信夫	○詩の韻律を味わい、詩にこめられた主題について考える。 ○詩の表現上の特色について考え、その効果を味わう。 ○さまざまな詩の読解をとおして、言葉に対する感性を磨き、想像力を養う。	
	7	4 小説二 空缶 林京子 ステップアップ2 「体験に基づく小説」 読書案内2「戦争と青春」	○登場人物の行動や心情、人物関係などを的確に読み取る。 ○主人公の戦争体験とその後の生き方について読み取り、作品の主題について考える。 ○さまざまな小説の読解をとおして、想像力を養う。	
後期	9	1 随想二 人生 芥川龍之介 旅について 三木清	○文章の展開や表現上の工夫などを理解し、筆者の主張を的確に読み取る。 ○筆者の主張を参考にしながら、人生と旅について、自己の考えを深める。	
	10	6 小説三 女生徒 太宰治	○作品に描かれている情景、人物の心情、人物関係などを表現に即して味わい、主題について考える。	
	11	悟浄歎異 中島敦 ステップアップ3	○登場人物たちの過剰な自意識や揺れる心を読み取り、自己と比較しつつ考える。	

後 期		『自意識過剰』の若者たち 読書案内3「戦争へ——昭和初期 の青春」	○作品の表現方法や、その効果について話し合う。	
	12	7 詩二 夜明け前のさよなら 中野重治 汚れっちまった悲しみに…… 中原中也	○詩の韻律を味わい、詩にこめられた主題について考える。 ○詩の表現上の特色について考え、その効果を味わう。 ○作品の時代背景を知り、詩の言葉の意味について考える。	
	12	8 小説四 伊豆の踊子 川端康成 ステップアップ4 「二人のノーベル賞作家」 読書案内4「自由の息吹——大正 時代の青春」	○作品の時代背景を知り、登場人物の行動や心情、人物関係な どを的確に読み取る。 ○主人公と踊り子の立場の違いを理解し、作品の主題について 考える。 ○名作に触れ、名作を味わう。	
	1	9 評論 私の個人主義 夏目漱石	○夏目漱石について学習する。 ○文章の構成や展開を理解し、筆者の主張を的確に読み取る。 ○日本の外国の文学や文化等の受容の特性を理解し、日本の 近代の成立過程と知識人の役割について考察する。	
	2	10 短歌 みだれ髪 与謝野晶子 一握の砂 石川啄木	○短歌や俳句の基本的知識を整理し、作品の解釈・鑑賞をす る。 ○定型表現の特色や表現技法について学習し、日本語や日本 文化に対する理解を深める。	
	2 ～ 3	11 小説五 舞姫 森鷗外 ステップアップ5「近代文学と文体」 読書案内5「明治—— 青春の誕生」	○森鷗外について学習する。 ○作品の構成や展開を把握し、日本近代における自我の目覚 めについて理解し、作品の主題について考える。 ○日本の近代の成立とそこにおけるさまざまな問題、近代的 自我・近代的恋愛・封建制・立身出世等について、今日的視 点で考察する。	

◎評価の方法

- ・授業では、毎回漢字の小テストを実施する予定である。
- ・夏休みと冬休みには、それぞれ課題図書とその読書感想文を課題として課す予定である。
- ・夏休み中に、学習が遅れぎみな者に対する指名補習と、進学を希望する者を対象とした実力アップ補習（希望者）を実施する予定である。
- ・評価は、定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に、出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。
- ・定期考査は、1・2学期は中間考査と期末考査を、3学期は期末考査をそれぞれ百点満点で行う。
- ・小テストは、漢字に関するものを毎時間実施するほか、古典学習時には、学習内容に関連したものを実施する予定である。小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・グループによる調べ学習に付随して、発表の授業とレポートの提出を予定している。
- ・グループ学習による発表学習については、担当教員の評価の他、生徒相互による評価も行い、担当教員が実際の評価を決める際の資料として活用する。
- ・各学習のまとめ段階では、自己評価や相互評価も活用する予定である。
- ・なお、年間授業時間数の1/3以上を欠席すると、単位を認定しないので注意すること。